

# メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第42号

[2012年5月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第42号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## <目次> [ページ]

平成24年度総会および活動報告会のお知らせ	[2]
JAM スタディツアーのお知らせ	[3]
メソトマンスリー	[4]
国内から マウンマウンティン氏 展覧会・座談会を終えて (淵上 養子)	[6]
編集後記	[9]
次号の予定	[10]



平成24年度総会および活動報告会のお知らせ

1. 日時 **平成24年5月20(日) 13時30分～17時**

- ・総会 13時30分～14時30分
- ・報告会 14時30分～16時
- ・懇親会 16時～17時

\*総会へ参加していただけるのは賛助会員の方のみです。  
報告会はどなたでも参加できます。

2. 場所 **JICA 地球ひろば 3階 セミナールーム 301号室**

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

東京メトロ日比谷線 広尾駅下車(3番出口) 徒歩1分

地図 <http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

3. 内容

\*総会 事業・会計報告

\*活動報告会

「院内感染予防への取り組み ～メータオ・クリニックから病院へ～」

当会はクリニックと共同で院内感染予防対策の活動に取り組んでいます。

今回は、現地スタッフの前川由佳よりクリニックで実施している院内感染予防対策の現状と今後の課題について報告します。

4. 定員 先着60名

5. 参加費 総会・報告会：無料  
懇親会費：1人500円

6. 申込み

参加ご希望の方は、(1)氏名 (2)住所 (3)電話番号 (4)所属 (5)懇親会参加ご希望の有無をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。

[support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org) 担当：淵上

尚、総会または報告会のみご参加の方はその旨をご記入ください。

皆様のご参加をお待ちしております。



## JAM スタディツアーのお知らせ

平成24年7月にスタディツアーを開催することとなりました。  
めったに見ることのできない難民キャンプにも、足を運びます。  
実際にJAMが活動している場所で現地の様子を見てみませんか。

参加してみたい、興味がある、詳しく聞かせてほしい等、お問い合わせは、  
support@japanmaetao.org 担当：渡辺 まで  
メールのタイトルに「スタディツアーの件」と記入の上、お気軽にお問い合わせください。

○ツアー期間○

**平成24年7月29日（日曜）～平成24年8月4日（土曜）**

○スケジュール○

- 7月29日（日）：朝、成田空港集合。成田11時発、バンコク16時着、（ディナー、  
夜バスでメーソットに移動
- 7月30日（月）：朝メーソット着、メータオクリニック見学
- 7月31日（火）：支援をしている学校の見学
- 8月1日（水）：支援をしている学校の表彰セレモニー
- 8月2日（木）：難民キャンプ見学
- 8月3日（金）：朝バスでメーソット発、夕方バンコク着、（バンコク解散も可、）  
バンコク22時発
- 8月4日（土）：羽田7時着、解散

\*飛行機の時間・到着空港（羽田・成田）等は変更となる可能性があります。  
\*使用する航空会社は、未定です。東京からバンコクへは、直行便を利用予定です。

○価格○

130,000円

ただし、飛行機チケットをご自分で取られる方は60,000円。

○備考○

上記日程は、JAMスタッフ（日本人）が添乗します。

3日（金曜）にバンコクにて解散も可能です。

その場合、航空券の値段が変動する可能性がありますのでご了承ください。

ツアー代金に現地でのバス代・宿泊費、難民キャンプ入場料は含みます。

食費・お土産代、空港使用料、空港までの交通費などは含みません。



メソトマンスリー

## 院内感染予防活動:環境改善キャンペーン実施中! ～ポスター大作戦&ごみ分けプロジェクト～

【メソト=前川 由佳】



院内の環境を改善するためにどうするか。

Infection Control Team のミーティングで真っ先に挙げた意見がポスターの作成でした。

クリニック内には、病棟独自で作った禁煙ポスターなどがありましたが、紙刷り白黒コピーのポスターが多く、破れていたたり印刷が薄くなっていたり、あまり人々の目に止まるものではありませんでした。

外来待ちをしながらたばこを吸う患者さん、いつもの光景です。

また、クリニック内に設置してあるごみ箱は、その色と大きさの違い、マーカーで書かれた文字によってのみでしか分別方法が示されておらず、短期間の滞在の患者さんにとっては分かりにくいものでした。

患者さんはごみ箱を開けてみて中身を確認、違ったとしてももう開けたし捨てちゃおう、もしくは分別の感覚はなくそのまま捨てる、そんな光景がよく見られていました。血のついたガーゼは、そこらへんに捨てちゃだめだと言われてもどこに捨てればいいのかわからないし…患者さんから聞かれる声。

そこで、もっと患者さんに分かりやすい表示・メッセージが必要だと、環境改善につながるポスター・ごみ分けステッカーの作成に乗り出した ICT メンバー。

しかし、これが思いのほか難しいのです。どのような内容が必要か、どう表記したほうがいいのかなど、簡潔で伝わりやすいメッセージの構成から始まり、文字が読めない患者さんもあることから分かりやすい絵・表示の選択をして、試し刷りをしては、スタッフや患者さんに聞いて周り、改善を重ねること2カ月余り。クリニック環境衛生の保持を呼びかけるメインメッセージから、禁煙ポスターやビルマの習慣であるビートルナッツ\*の地面への吐きだし禁止を訴えるものなど合計8種類の環境改善ポスター、新たにリサイクル分別を追加した合計4種類のごみ分けステッカーが仕上がりました。

いざ、仕上がったこれらのポスター・ステッカーですが、気付いたら貼られている、となってはメッセージ性が低いので、キャンペーンと称して患者さんへ直接メッセージを伝えることにしました。

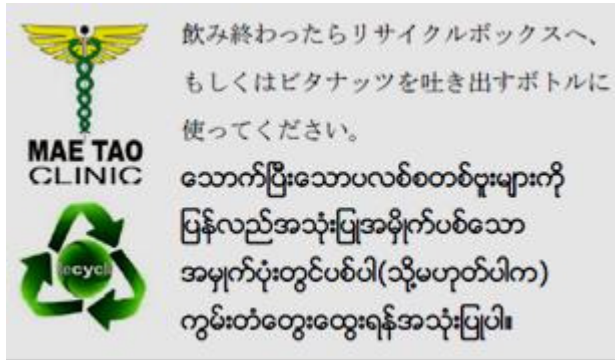
その名も・・・環境改善キャンペーン!～ポスター大作戦&ごみ分けプロジェクト～。

クリニック内で、できるだけ多くの患者さんが集まる受付と患者さん用キッチンにて各ポスターの説明とゲームを用いてのごみの分別教育を行いました。新たに作成したステッカーを貼りつけたごみ箱と様々なごみを準備し、患者さんや子どもたちに適したごみ箱へ捨ててもらうようお願いします。多くの参加者は適したごみ箱に捨てられますが、今回初めて導入したリサイクルボックスに戸惑う患者さんもいます。何をしているのかと、見に来たクリニックスタッフも参加。



わざと間違えて ICT メンバーから指導を受けるといった場面があったりと、楽しさを交えた分別教育となりました。

ゲーム参加者には特典として、オレンジジュースをプレゼント。このジュースのペットボトルにはこのようなステッカーが貼ってあります。



この特典が単なるジュースではなく、リサイクルという感覚を促進し、「ビタナッツを、わざわざごみ箱まで行って吐けないよ」という多くの人々にとって、具体的な対処法となることを ICT メンバーは期待しています。

これはだめ、あれはだめ、と小言に聞こえてしまいがちな環境改善への声かけ・指導ですが、スタッフと患者さん、お互いが気持ちよく関わりあえるように、これからも ICT メンバーそれぞれのアイディアに乗せて、伝えていこうと思います。

**\* ビートルナッツ : betel nut**

ヤシ科ビンロウの木の種子を使った噛みたばこに似たもの。

噛むことで赤い唾液が口の中に溜まるが、飲み込むと胃を痛める原因になるので吐き出すのが一般的。吐き出された唾液、分泌液は感染の原因となり得るだけでなく、地面に赤い跡を残し、血液にも見間違えられるため、院内環境として好ましくない。



(写真左) クリニック入り口に設置した環境衛生保持を呼び掛けるポスター

(写真右) ごみ分けゲームの様子

## きょうのゆめ

クリニック内で遊んでいる元気な男の子3人組を発見！

車のおもちゃで、みんなで楽しそうにしている様子を見てインタビューの交渉に向かった途端、エーン！ワーン！！と大号泣が始まってしまいました。

何？なに？？よくわからないけど、お父さんに怒っている男の子。おもちゃの車をブンブン振りかざし、止まらない涙と共にお父さんへ想いを訴え続ける彼。

そう、彼が今回の主役、エイミンゾウくん、3歳です。

インタビューは無理かなあ…と、他の子どもと話をしていると、気付いたら号泣は聞こえなくなり、振り返ると、べったりとお父さんの膝の上に座っているエイミンゾウくんがそこにいました。

将来の夢は…まだ話せないエイミンゾウくんが変わってお父さんが思いを話してくれました。しっかりと教育を受けて、お金に困らないように、自分のように重労働をしないですむようになってほしい。カレン州ココレイから、ヘルニア手術を受けにきたエイミンゾウくんは、元気に翌日退院していきました。

たまには伝えたいことがあって、わかってほしくて、いっぱい涙と感情をぶつけちゃうけど、ほんとうはとってもお父さんが大好きなんだ。いっぱい勉強して、立派になって、いつの日かお父さんを支えるからね、そんな思いが聞こえてくる気がしました。



(写真右) お父さん待っててね。僕が支えるからね。

(写真左) 数分前まで号泣しながら、お父さんに怒っていたのだけど・・・

### 国内から

## マウンマウンティン氏 展覧会・座談会を終えて

4月号の会報でご案内いたしました。メータオ・クリニック職員であり、ビルマ人難民画家であるマウンマウンティン氏が初来日し、東京（4/29）、横浜（4/30）、大阪（5/5,5/11）の計4会場にて展覧会および座談会を開催いたしました。



【東京＝淵上 養子】

日頃より当会の活動にあたたかいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

JAMの設立当初から日本事務局スタッフとして関わらせていただいております、淵上と申します。主な仕事は支援者様へメールでのご連絡やお問い合わせの対応、会員様の名簿管理等を行っております。この会報をお読みの方の中には、お会いしたことはなくてもメールでやり取りさせていただいたことのある方がいらっしゃるかもしれません。いつも大変お世話になっております。

私は今、2歳の息子の育児をしながら、埼玉県の自治体で保健師として働いています。「仕事と育児を両立しています！」とはとても言い難く、保育園のお迎えや病気で保育園に預けられないときの面倒など、両方の実家に多いにお世話になりながら、バタバタと過ごす毎日です。JAMのメンバーには迷惑をかけてしまっているのですが、できる範囲で活動に関わらせてもらっていることをいつも有り難く思っています。

さて、その2歳の息子ですが、最近は大いぶ言葉を覚えて意思の疎通ができるようになりました。「だいじょうぶ？」と人を気遣うこともできるようになって、その成長ぶりに感動する反面、しっかり自我も芽生え、思ったようにならないとすぐに怒って駄々をこねるようになりました。「もものジュース〜!」「チョコ〜!」と泣きながら訴え、家になかったり、食べ過ぎるから渡さなかったりすると、なかなか機嫌を直しません。

そんな息子を前に、まだ小さいから仕方ないと思いつつも、「世の中にはジュースもお菓子もオモチャも思ったように手に入れられない子どもたちがたくさんいるんだよ〜」と、つい言い聞かせたくなってしまいます。そして、欲しいものが手に入りニコリ微笑む顔を見るとき、心の底から「よかったね〜」と声をかけてしまいます。恵まれた環境で暮らせること、おいしいものを食べられる幸せ、いろいろな意味で「よかったね」と。

そう思いながらいつも思い浮かべるのがマウンマウンティンさんの画集で見た子どもたちの絵です。食べ物がなく、お腹を空かせている子どもたち。安全な寝場所さえない子どもたち。将来の夢が描けない子どもたち・・・。

JAMのメンバーに借りて、彼が描く絵に私が初めて出会ったのは、昨年1月のことです。

それから約1年が経ち、先日、マウンマウンティンさんを初めて日本に招き、日本ビルマ救援センターとJAMの主催で東京と横浜、大阪の計4会場において展覧会と座談会を開催しました。

マウンマウンティンさんは、メータオ・クリニックの職員であり、ビルマ人難民画家としてこの10年間、数々のビルマ難民の日常の姿を描いてきた方です。ビルマ軍の攻撃から逃れてきた難民、山中やジャングルで避難生活が続ける国内避難民、ビルマ国内から生活困窮のためにやむなく仕事を求めて国境を越えてきた移民労働者、ゴミ山に暮らす人々とその子どもたちなどを写実的に描き続けています。

私は東京会場でスタッフとして参加し、マウンマウンティンさんにお会いすることができました。とても控えめで優しい笑顔が印象的な方でした。「日本はとてもきれいな国でびっくりした」と、そして「日本に来ることができるなど子どもの頃は思いもしなかった」と話していました。

展覧会の前に一緒に展示の準備をしていると、自身の作品を丁寧に丁寧に額に納めていました。その真剣な眼差しに、ビルマの現状を伝える責任のようなものを感じました。克明に描かれた人々の表情から、50年以上も続く紛争へのやるせなさ、悲しみ、苦痛の声が聞こえて来るようです。優しく繊細な色遣いでありながら、描かれた情景から目を背けることができなくなるような強い印象が心に残りました。

座談会が始まると最初は緊張されているようでしたが、熱心に耳を傾ける会場の皆さんを前にして徐々にリラックスし、故郷を想う気持ちが言葉にこめられていきました。ビルマの歴史と現



状から始まって自身の生い立ちまで話が進むと、感極まって涙される場面もありました。

報道ではミャンマーの民主化進展が強調されていますが、マウンマウンティンさんは座談会でビルマの現状をこのような言葉で伝えました。

—ビルマは本当に変わったわけではない。私たちの状況は依然、良くなってはいない—

そして、今後もビルマや国境に生きる人々のために支援を続けて欲しいと静かな声で訴えました。



左の写真は展覧会で飾られた作品のひとつです。

地雷で片足を失った母が子どもを慈しむ姿に目を奪われました。

罪のない母子の傍らに今も戦闘があります。

片足の母がどれだけ厳しい生活に耐え、我が子を必死に育てているかと想像すると胸が痛くなりました。

ただ、母の穏やかな表情からは過酷な日常であっても、愛する我が子の存在に癒され、力をもらうひとときがあるのを感じます。母の強さに感動すると同時に、どうかこれ以上ふたりを傷つけないで欲しいと心の底から願わずにはいられませんでした。

展覧会と座談会を通して、子どもに十分なお飯をあげられること、安心して眠りに着く寝顔が見られること、清潔な服を着せられること、家族と一緒にいられること、それらすべてが尊いことで、そんなささやかな幸せさえ叶えられない、ビルマや国境地域の現状が悲しく、やるせない気持ちになりました。

日常を無事に過ごせることに感謝しながら、ビルマのために自分のできることを考え、行動していきたいと思います。そして、息子に少しずつ、欲しいものがすぐ手に入る世界がどれだけ尊いものか、家族皆と一緒に暮らせることがどんなに幸せなことか、伝えていきたいと思います。

展覧会および座談会にお越しくださった皆様に心より感謝いたします。

残念ながら当日は会場に来られなかった方も、マウンマウンティンさんの作品は下記のサイトでご覧になれます。ぜひご覧ください。

[http://www.vagabondreporters.com/maung\\_maung\\_tinn.htm](http://www.vagabondreporters.com/maung_maung_tinn.htm)







マウンマウンティン氏（中央）を囲む JAM スタッフ  
4月29日（日）東京会場にて

## 編集後記

5月12, 13日に渋谷にある代々木公園でタイフェスティバルがありました。  
携帯が圏外になってしまうほどの大混雑！  
タイ料理は、タイビールがすすみます。パッタイ（焼きそば）なのに辛かった！！  
でも、ビールを飲めば、辛さややわらぐのは不思議。

すれ違う人々がココナッツジュースを持っていたので気になって買ってみました。  
意外と量が多くって飲みきるのが結構、大変でした。  
手に持っていた人が多かったのは、その場で飲みきれなかったせいかしら。。。



5月20日は、いよいよ、JAM 総会です。  
すでに参加希望のご連絡をいただいている皆様、どうぞよろしく申し上げます。  
道中、お気をつけてお越しく下さい。

まだお申し込みをされていない方も、今のところ、席の余裕がございます。  
ぜひ、ご都合がつくようでしたらお越しく下さい。  
懇親会では、お菓子とお茶を用意しておりますので、スタディツアーのことや活動に積極的にか  
かわってみたい等、ございましたら、スタッフにぜひお声掛けください。  
懇親会のみのご参加も可能です。



